（二十二日夕刊）
磐城新聞
休刊　祭第一　第三日曜
定價（壹枚一錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（二行平均指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　運沼龍輔
福島縣平町字田町拾六
發行所　磐城新聞社
電話五六番

小說

死を超ゆる者

（69）

三上於菟吉作
布施平八郎畫

飛信（三）

（中略）僕を祝福して友情の盃を擧げて呉れる君達二人の面影でおもつた友等よ僕は孤獨の國一彷徨ひ込んだ時、賑やかな都會の交友間にあつたときまるで氣がつかなつた。いやほんの一部分しか氣がつかなかつた友情の價値を知つた、それは光り魚として勇氣を要するのやうでもあれば、妙なと、村越が答へた。

形容だが食物のやうでもあつた若し人が相互の友情を感じなかつたら、この境に沈み入るであらうただ友誼の追懷が孤獨のものゝ墜落を引きとめる島流しの罪人は、暗岸を噛む怒濤のうちに身を投じやうと試みるかも知れない、而し彼が、月か、恐らくたゞ一點の星を見ただけでもこの同じ月、同じ星を何處かで眺めて居る自分の故郷があるのだと言ふことを思ひ出し

二人の眼は再びもとの手紙に落ちた。

ところが、僕は孤兒とあつた。少くとも孤兒らしい身の上であつた。僕にいくらかの女性の二人があつたとしても、一人は今まで姉と呼んでゐた人でありまた他のものは總て根底に動搖を來たす問題と言ふには餘り子供らしい——若し誇る事を許してくれれば、異性の交し合其ものゝやうな間柄であつた。そして強いて今一人擧げるならばその年若き女性は僕の故へよ

なら彼はもう死なないだらう。僕はこゝに友情や、故郷と言ふ言葉を用ひたこの言葉は當然普通の場合には親子の情とか、想思の想ひとか言ふ文字に當き代へらるべきものかも知れない……

二人は同じ速度で此處まで來てゐるんだ眼を見合せ

「あの男は、妙に感情を冷靜に保つことが出來る男だいやほんの一部分しか氣がつかなかつた」と、高山が言つた。

「この條を書くには、あの値を知つた、それは光り魚として勇氣を要する」

つても好い無邪氣な學生であつた。そこで僕は友情といふ言葉を用いたが、僕は何で……のやうな現世文學者の感想文のやうなことを書いてゐるのだらう。僕はもつと明快に、直接に、素直に、君達の前から全く姿をかくした、あの出獄後の消息を語るべきであつた……

「さうだ、僕達の知れざいものもそれだ」と、村越は言つた

※……明日の月　七日
※……曆十日　八日
※……吉國　舊曆三日　九日

▲一白　次第に順調の月なれど金談絲談面白からず▲二黑　何事も面白く順よく運び行く日常業尤も吉▲三碧　内を整へば外自ら訓に走るべし失ひ物注意▲四綠　過分の望みを起さず常業を勵めば進展あり▲五黃　小資を以て巨利を得る日移轉動土等も吉し▲六白　積道に走りて失敗し易き日萬事手控が安全▲七赤　機運何ならず進むも退くも不自由を感ずる日▲八白　榮進する日必の緩まぬ樣一致して勵むべし▲九紫　事業の根底に動搖を來たす日愼重に考慮せよ

白馬の雪
芳醇無比
松本德一吟釀
電話（平）七五二

廣告
吉田眼科醫院

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

梅毒と體質を切らず注射せず治す
からだのどくばいどく
ベルツ丸
王室ツルベー侯御用
SUZUKI NIPPON-SEIYAKUSHA
◎梅毒。りん毒。横痃。下疳。しつ毒。梅毒性リウマチス。ひる毒。せきずい。疼痺。腦梅毒。遺傳梅毒。惡性皮膚病其他
藥價（輕症用三圓。重症用五圓。頑固用十圓。根切德用廿圓。試用二圓。一圓）
平町五丁目角
特約店　山野邊藥局

內科診療
消化器病科　呼吸器病科
小兒內科　一般內科
入院應需（自炊ノ便アリ）
平町鼠坂
渡邊內科醫院
電話一六一番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

一圓十錢のフランス
マルソー會社元詰
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ
生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　西村屋藥舖
たはなし　三番

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負其他
百
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

レコードハ此のマーク！を
店員募集
肉聲のビクターレコード
販賣店　會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門
日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科
日本齒科醫學士科長　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

改正　片濱乘合自動車時間表
平發　江名發
五時三十分　五時三十分
六時三十分　七時三十分
七時　七時五十分
八時　九時二十分
九時　十時三十分
十時　十一時三十分
十一時五十分　一時
一時　二時三十分
二時十分　三時三十分
三時　四時十分
四時十分　五時四十分
五時二十分　六時四十分
六時三十分
江名のりば
新川町車庫前
和泉屋前
平のりば
四丁目
沖見屋
松屋
鈴木片濱自動車部
電話二一七
電話十四番
車庫呼出電話一四二

內臟外科
骨關節外科專門
藤本順
整形外科
產婦人科
院長　木村寅次郎
平町新川町
外科
婦人科
木村病院
電話一六四番

營業種は
石炭
コークス
玉炭
磐城第一ノ石炭トシテ自他共ニ推稱スル
◎磐城炭礦ノ最上石炭
一、正味十貫目入　壹俵　金六十五錢
◎日本デー番評判ノ良イ東京瓦斯コークス
一、コークス　壹俵　金壹圓三十錢
◎木炭ノ三倍御德用ナ㊐ノ玉炭
一、玉炭　大箱壹箱　金貳圓
配達ハ一俵ヨリ致シマス
平驛前
㊐阿部石炭商店
電話二三七番

粉白美ホシ
最高の白粉
となたの肌をも自然的に美化し、氣品と艶麗に滿ちた化粧映のするホシ美白粉こそ又、絶對無鉛にて、尚生上よりも、最高の白粉と賞美さるゝものであります。
ホシ製水白粉　白・肌色
ホシ製練白粉
ホシ製固練白粉
ホシ製白粉
ホシ製固練白粉　白・肌色

東京　星製藥株式會社　大阪

榮轉も左遷も問題の外
所詮は芝居の役割と同じ事
けふ着任した荒井平署長の談

平警察署新任署長荒井市太郎氏は二十二日午前十時半平着列車で着任早速署長席に納まつたが流石穏せぬ喜びの色を滿面に往訪の記者に語る

榮轉も左遷も時の調子で世間が想像するほど喜んだり悲んだりするものではない、つまり太根役者が殿様となり座元が馬方に扮するも平に來るも一つの役割に過ぎぬ、そこで其身である愛嬌たつぷりに茶氣を見せたが酒は昨年眼病以來成るべく謹しむことにして趣味も道樂も昔の儘だと仲々話上手の如才なさである

因に荒井署長は明治二十九年本縣巡査を拜命三十四年班、石田俊夫、太田秋之八九年日露戰爭當時平署助、鈴木啓天、宗田利助の各氏、一日平町集合、二日平治療院、三日旅行吉例により懸賞附假裝募集する事となり審査の結果一等より五等まで賞品を贈呈参加者は同日午後六時妙見神社境内受付で参加章受取り本町通りから田町を經て本町集合、二妙見に歸着の筈で盛大を豫想されてゐる

（湯本駐在所勤務）に小田原署長の許に在り越えて四十三年十二月齋藤春記署長の許に警部補で約一年ほど平にゐて恰度今度が三度目の平で夫人との間に東洋大學在學中の長男俊一（二六）帝大國文科卒業後田村中學校數輸を奉職の次男正巳（二五）目下帝大支那文科在學中の三男瑞（二三）の前途ある三人子を有する相馬郡大野村の出

石城方部の出納檢査

九月一日から開始

縣參事會の石城方部出納檢査は九月一日から甲乙兩班に別れて執行すべく日割を決定が檢査の都合で變更する事もある由

愛慾が盡き果てた
他力本願の湯本町當局
けふ小泉町長を呼びつけて平町警告を發す

湯本町では打ち續く旱天に惱まされ文字通りの水飢饉となり座元が馬方に扮するも平に來るも一つの役割に過ぎぬ、そこで其身である愛嬌たつぷりに茶氣を見せたが酒は昨年眼病以來成るべく謹しむことにして趣味も道樂も昔の儘だと仲々話上手の如才なさである

因に荒井署長は明治二十九年本縣巡査を拜命三十四年班、石田俊夫、太田秋之八九年日露戰爭當時平署助、鈴木啓天、宗田利助の各氏、一日平町集合、二日平治療院、三日旅行吉例により懸賞附假裝募集する事となり審査の結果一等より五等まで賞品を贈呈参加者は同日午後六時妙見神社境内受付で参加章受取り本町通りから田町を經て本町集合、二妙見に歸着の筈で盛大を豫想されてゐる

白銀北辰妙見
廿五日懸賞假裝行列

平町白銀町北辰妙見神社の大祭は來る二十五日執行、れるが白銀青年分團主催で

運動費寄附芳名
小名濱商港復活
領收證に代よ　小名濱町役場
（八）

金壹圓也　本間　セン　同
同　倉兼　常八　同
同　遠藤增太郎　同
同　小松　利助　同
同　小野　惣吉　同
同　高津　傳吉　同
同　三浦　コウ　同
同　野崎　庄重　同
同　堀越　梅吉　同
同　箱崎　留吉　同
同　野崎丞之助　一金五拾錢
一金壹圓五拾錢　野崎長五郎　同
金五拾錢　齋藤傳之丞　同
齋藤與七郎　同
宮川彌太郎　同
山内平五郎　同
一金壹圓也　佐藤寅五郎　同
平野　安吉　同
安島　仙吉　同
高津　忠次　同
小野　シヅ　同
沼田　松次　同
小野　常吉　同
岩谷　義光　同
渡邊榮之助　同
尾形　通吉　同
田菊　五郎　一金五拾錢
古川　清吉　同
一階堂　福　同
小野寅之助　同
若菜　留人　同
三浦　周次　同
一金壹圓五拾錢　小野寅之助　同
青木　留吉　同
野崎昇太郎　同
作山　四郎　一金壹圓也
平野己之吉　一金壹圓也
鈴木　石松　同
中山　龜松　同
作山　友吉　同
志賀丑太郎　同
志賀幸三郎　同
小野　捨吉　同
小野　淡吉　同
小野市五郎　同
作山芳太郎　一金五拾錢
菅野　萬吉　同
一金參拾錢　小野　吉彌　同
藤社　銀藏　同
田中　喜作　同
菅原　道一　同
齋藤勝壽　同
佐藤　彌助　同
郡司　幸作　同
藤堂勘右工門　同
鈴木　隆宅　同
中野道太郎　同
鈴木　きく　同
吉田　寅松　同
飯塚藤右工門　同
上遠野丹治　一金五拾錢
佐藤　保次　同
小智　象利　同
小松　須晴　同
佐藤　いね　同
木村　松吉　一金壹圓也
作山　寅松　同
中郡　梅吉　同
白土　由松　同
中山　寅松　同
小野竹次郎　同
水澤豐三郎　同
小野信太郎　同
赤木　敬憲　同
小野源四郎　同
松本德次郎　同
小野安右衛門　同
松本平一郎　同
小松　銀吉　同
小松　慶藏　同
松本十太郎　同
小野　勝司　同
齋藤定次郎　同
小野　吉彌　同
小野　忠藏　同
藤社　銀藏　同
田中　喜作　同
高久　要吉　同
菅原　道一　同
齋藤勝壽　同
佐藤　彌助　同
郡司　幸作　同
藤堂勘右工門　同
鈴木　隆宅　同
中野道太郎　同
鈴木　きく　同
吉田　寅松　同
飯塚藤右工門　同
上遠野丹治　一金五拾錢
佐藤　保次　同
小智　象利　同
小松　須晴　同
佐藤　いね　同

漫畫富士登山
平から平まで　團圓の卷
（十三）
山田生畫く

唐人に吉と

彌次喜多を觀る

芝居の幕は直ぐ明いた一番目は眞山青果作唐人に吉　幕末ハルリス來航當時を描いたもの

お吉が幕吏の强制的戀請によつてハルリスの妾となつて唐人に吉と謳はれるまでの前後のお吉　精神的惱みの表現といつたところをねらつたもの　松蔦のお吉は申分がない

型のみを尊ぶ從來の藩劇に比して何かしら一歩突つこんだ所のある芝居だ　芝居も徒らに贅澤を守つてのみではいけまい　かくして漸次時代に順應して行くであらう

□

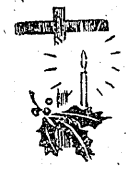
二番目は彌次喜多木曾街道の卷だ　猿之助の喜多八と友右衛門の彌次が京都は三條の大橋を振り出しに幾多の奇拔な失策と滑稽とを飾つた觀覺者が文字通り立演じて行くのだ

その背景の舞臺裝置が重信の書そのまゝの筆致を構圖だ　丁度重信の畫を擴大して動かす樣な氣分が髣髴として當時に遊ぶ心地がする

姥捨山の田毎の月の影など中でも白眉だ

御嶽詣りの六根淸淨があるあたり何うやら今次のTさとKさんの旅と一脈相通する所があるので相顧みて苦笑を禁じ得ない樣子であつた

（記者曰く）本稿執筆者にして畫中のKさんとは七十七銀行平支店長山田勇太郎氏、彌次喜多の相役畫中のTさんとは平窪村長の口主人松本德一氏あ　ことを讀者にお知らせ致します



でもあつた

□

かくして七日のまだ明けやらぬ午前三時半Tさんもまた居所平の停車場に降り立つたのであつた

（終り）

安全標語の募集
審査結果發表

湯本町入山採炭株式會社では毎年八月之か最も事故が發生するに鑑み之れが防止策に今月中を安全デーとして一般の注意を促す事となり過般從業員から安全標語を募集した、審査の結果右如く入選した

（一等）九十九人は注意をしても一人油斷で大變が起る　加藤正一

（二等）腕が資本の大事なからだ不斷の注意で怪我するな　松本正三

（同）注意に勝る放なし危險なし　小野久治

（同）急ぐな仕事の始めにまづ檢査　橋本升雄

（三等）以下略す

ツエ伯號故障
出發は廿二日
平上空を通過

（土浦電話）霞ケ浦に滯泊中のツエツペリン伯號はガス補充作業も終へ世界一週第三航程大平洋橫斷の壯途に就くことなり二十二日午前四時七分出發の爲め機体を格納庫より搬出檢査するや發動機に故障を發見したので町會決議の上平町自動車を以て態々湯本まで運搬供給して來たが湯本町では夫れ以來、有難いと御禮の一語も言はぬ許りか何等他に水を求むべき應急手段も講せずたゞ慢然として平町の好意を甘むじ自動車の運搬料まで平町に負擔させて恬然顧るなき態度に些か業を煮やした平町當局では今二十二日湯本町長小泉三代喜氏の出張を求め伏見町長から

平上水道、限りある水で際限なしに呉れる事にも行がぬから其のつもりで應急方法を講じて貰ひたいと

警告的に供給拒絶の宣告をしたが他力本願主義の湯本町當局には平町も些か手を燒いての結果であるとの評判である

石城郡下の稻作
平年より二割增收豫想
農家大喜悅

石城郡農會當局では過般來郡下の稻作狀況を調査中であるが七用入り後連日の旱天續きで稻の發育は頗る良好苗代期の大暴風被害に依つて全郡下不作を豫想されてゐたものが現在までの調査に依ると平年作よりは二割以上の大豐作を見るものと豫想された當業者は勿論郡農會當局では非常に喜んでゐる之に就て大山郡農會技師は

「稻作狀況は全郡一般に非常な好成績で例年水不足で惱んでゐる郡南方部までが目下の處では順調な發育狀態です、全部豐作の濟まない中はハツキリ分りませんか、先づ平年作に二割方の大豐作を見る事は疑ひないやうです」と語つてゐる

心中を覺悟
湯本の娘家出

石城郡湯本町大字湯本大谷銀治發女よく（一九）は去る九日午前八時ころ外出したまゝ歸宅しないので銀治は十九日平署に出頭行方捜索方を願出たがよくは豫てから戀仲である同岡小熊福司（二六）と添はれぬ縁を悲觀して心中の覺悟で駈落したものらしい

無錢を宿泊
金を借り　逃走

平町紺屋町住吉屋本店に數日前より投宿中の伊藤三郎（二七）は近く活動寫眞撮影隊を平に伴れてくる準備中だと言葉巧みに宿を欺き宿料を仕拂はず現金二十圓を借りて二十一日夜逃走したが平署に捕はれ目下取調べ中

かみそり
◆出るものは汗とアクビばかりだと、署サと緊縮にしようげてる藝者連は、何かこう、お客が押すな〳〵でやつて來るような名案がないものかと、署氣にダラケた腦味噌を紋つてる◆中で若干頭の好いのが、青物市場なんてアンナに人が出るんだもの、一つアタイ達も市場に出たらどう、精々値段を見切つて廉賣したらキツト賣れるわ◆バカだな、一つ、彼は市日に三丁目の角むしろの上に並んで、賣物になるつもりなんだらうが、切つて見て赤くなかつたら、錢は取らない」なんて西瓜みたように◆好いことを敎へてやらう、次號で珍無類の名案をね

平刑務所の改築延期
緊縮整理犧牲

平刑務所は本年度に改築されるは既報の如く現在の平稅務署管內の昨年酒造高は二萬一千五石であつたがはらせてゐるが是は去る七月が酒造稅第一期納期のため各酒屋とは稅金に困り酒の投げ賣りを行ひ中には一石六十二、三圓で亂賣するもの續出し賣上げ石數著しく增加したもので實際の二比して四百五石の增加を見

稅金に差し迫り
酒の亂賣
石城地方酒造界

一石六十二三圓位で

大和田醫院

平町南町　雪話一七〇番

富士山頂劍ヶ峯を背景としたTさんとKさん

二十五日ヨリ五日間
全商品を擧げて
夏物棚ざらひ
三井呉服店

責任販賣
去る三月以來弊店發賣の大人革靴にて萬一三ケ月以內に破損せし物有之候節は御遠慮なく御持參被下度即時新品と御取替申すべく候
平四丁目
ツルヤ

夜診
三科　內科　十指腸虫病
專門
婦人病　淋病
皮膚病
專門
內科　外科部
松村醫院
（平南町電話一〇七番）
診療時間

生地の良い仕立の丁寧な
小供洋服
洗テハゲズ
二、三歳用　五十錢
四、五歳用　六十錢
六、七歳用　六十錢
八、九歳用　七十錢
十一、二歳用　八十錢
十二、三歳用　九十錢
スポーツ袴十四、五歳用　一圓三十錢
家庭用婦人服　一圓五十錢
ロンバース　五十錢
日ニモヤケズ
平田町　藤田町　學校隣
ハシモトヤ糸店

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋鋼鐵
金物問屋㊁釜屋商店
電話九番　一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
諸橋久太郎
確實敏捷は㊁の生命なり